

第五中学校区 学校運営協議会制度に関する研究

学校名 渡里小学校 堀原小学校 第五中学校

研究主題「学び合う」「助け合う」「きたえ合う」地域とともにある学校づくり ～第五中学校区「学校運営協議会制度」の活性化を通して～

1 主題設定の理由

子供たちを取り巻く環境や学校が抱える課題は、ますます複雑化・多様化し、学校と地域の連携・協働の重要性がさらに指摘されている。そのような中、学習指導要領では、「よりよい学校教育を通して、よりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有し、社会と連携・協働しながら、子供たちの未来に必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すことが前文で示されている。また、子供や学校の抱える課題の解決、未来を担う子供たちの豊かな成長のためには、「開かれた学校」からさらに、地域で目指す児童像や学校像を共有し、「地域とともにある学校」へ転換していくことが求められている。

こうした背景を踏まえ、第五中学校区の教育目標（「学び合う」「助け合う」「きたえ合う」）の実現に向けて、学校と地域が育てたい子供の姿や学校像を共有し、一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」づくりを推進していきたいと考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

- (1) 地域でどのような子供たちを育てるか、何を実現していくかという目標やビジョンを地域住民と共有し、「学校運営協議会」の連携・協働体制を構築する。
- (2) 学校運営協議会において必要な支援について協議し、幅広い地域住民の参加により、子供たちの教育活動の充実や活性化を図る。

3 具体的な取組内容

(1) 令和3年度の取組

令和3年度、4年度の2か年間、水戸市研究指定校として『「学び合う」「助け合う」「きたえ合う」地域とともにある学校づくり』を研究主題として、第五中学校区学校運営協議会を通して研究を進めてきた。

【学校運営協議会代表者会議】

ア 第1回 令和3年5月11日（火）

内容：第五中学区の課題と目標の共有

「現状と課題」→児童生徒は学校では挨拶をするが地域ではできない。

地域活動への保護者の参加率が低い。

保護者や児童生徒が地域の人々の顔を知らない。

「どのような子供たちを育てるか」→「地域の活動に参加できる児童生徒」

イ 第2回 令和3年6月22日（火）

内容：各学校の年間活動計画と具体的な支援の検討

令和3年度若手教員〔初任者〕研修講座への参画

ウ 第3回 令和3年11月25日（木）

内容：各校の進捗状況の確認

エ 第4回 令和4年3月3日（木）

内容：1年間の振り返りと次年度に向けた見通しの確認



【各小中学区の取組】

渡里小学校の取組

ア 渡里地区一斉清掃

日 時：令和3年8月1日（日） 7：00～8：00

参加者：渡里地区住民の皆様，渡里小学校保護者・児童・職員，水戸第五中学校職員・生徒等

内 容：渡里地区住民の会の活動として，毎年渡里地区一斉清掃を実施している。令和3年度は渡里小の学校だよりやHP等で渡里地区の一斉清掃についてお知らせし，児童の参加を促した。地域の方々と一緒に清掃活動に参加する児童の姿がたくさん見られた。

イ ふれあい渡里まつり

日 時：令和3年12月4日（土）13:00～15:00 5日（日）9:00～15:00

参加者：渡里地区住民の会，渡里地区子ども会，渡里小学校保護者・児童，水戸五中保護者・生徒等

内 容：渡里住民の会が主催しているふれあい渡里まつりでは，令和3年度はコロナ禍により「ちっちゃなふれあい渡里まつり」として開催されたが，渡里小や水戸五中の児童生徒の作品等の展示や，児童が楽しめる参加型の体験ブースが用意され，多くの児童生徒が喜んで参加していた。

堀原小学校の取組

ア 校庭の草刈り清掃

日 時：令和3年10月9日（土） 8：00～9：00

参加者：堀原地区住民の皆様，堀原小学校保護者・児童・職員，第五中学校職員・生徒，堀原小学校の施設を利用している少年団，近隣の保育所職員等

内 容：令和３年度から堀原地区住民の会の活動として、年３回、小学校の校庭除草清掃を事業化していただき、回覧や文書で広く参加者を募集した。
また、ＰＴＡでは除草後に「体操服お譲り会」を実施した。地域の皆様や近隣の関係団約３００名に参加していただいた。

イ ミニ火の国まつり

日 時：令和３年１１月６日（土） ８：３０～１１：３０

参加者：堀原小学校５、６年生、保護者、堀原地区ミニ火の国まつり実行委員会（事務局、催事班、接待班、太鼓班）の皆様

内 容：火の国まつりは堀原小学校区で約３０年前から続く地域の催事で、毎年夏休みに地域住民の皆様と６年生とで実施していた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和２年度は中止となったことから、令和３年度は、学校の授業参観で縮小版の「ミニ火の国まつり」を５、６年生児童とその保護者、地域のミニ火の国まつり実行委員会の皆様と実施した。

第五中学校の取組

ア 「夕涼みのつどい」ボランティア

日 時：令和３年７月２５日（日） １６：００～１８：００

参加者：ジュニアリーダーズのメンバー

内 容：堀原市民センターで実施された地域行事「夕涼みのつどい」にボランティアとして参加した。ゲーム等の説明や補助をし、地域住民の方々と交流を図った。

イ 「堀原小学校 校庭の草刈り清掃」ボランティア

日 時：令和３年１０月９日（土）

参加者：堀原小学校卒業生数名

内 容：堀原小学校の校庭の除草作業に参加した。

ウ 「ふれあい渡里まつり」ボランティア

日 時：令和３年１２月５日（日）

参加者：ジュニアリーダーのメンバー 吹奏楽部

内 容：渡里小学校で実施された地域行事「ふれあい渡里まつり」にボランティアとしてジュニアリーダーのメンバーと吹奏楽部が参加した。ジュニアリーダーはゲームや食販のお手伝いを行い、吹奏楽部は演奏をして地域住民の方々に披露した。また、文化部生徒が作成した作品や美術の学習で仕上げた作品を展示した。学級旗も展示した。

(2) 令和4年度の取組

水戸市研究指定校として『「学び合う」「助け合う」「きたえ合う」地域とともにある学校づくり』を研究主題として、第五中学校区学校運営協議会を通して2年間の研究のまとめを意識して進めてきた。

【学校運営協議会代表者会議】

ア 第1回 令和4年4月22日（金）

内容：第五中学区の課題と目標の共有

「現状と課題」→・児童生徒は学校では挨拶をするが地域ではできない。

- ・コロナ感染の影響により地域活動の自粛に伴い参加率の低下がみられる。

「どのような子供たちを育てるか」

- ・進んであいさつができる児童生徒
- ・地域の活動に参加できる児童生徒

「どのような取組をするか」

- ・授業参観を通して生徒の実態把握
- ・小中合同あいさつ運動
- ・各校での呼びかけ方の工夫 地域諸団体へ協力依頼



イ 第2回 令和4年6月21日（火）

内容：各学校の年間活動計画と具体的な支援の検討

「堀原地区」→ 8月22日（月）8：00～ 除草作業

10月 1日（土）8：00～ 除草作業

10月22日（土）9：00～ ミニ火の国まつり

「渡里地区」→ 8月 7日（日）6：00～ 地区一斉清掃

12月 4日（日）8：00～ ふれあい渡里まつり

- ・児童生徒への参加を一定期間継続的に呼びかける。
- ・青少年育成会と連携しジュニアリーダーへの参加依頼をする。
- ※ジュニアリーダー：中学生を対象に組織されたボランティア集団

小中一貫教育グランドデザインの配布方法の確認

[illegible]

- ・令和4年11月7日（月） 小中合同あいさつ運動



- ・令和4年10月22日（土） ミニ火の国まつり（堀原地区）



- ・令和4年12月4日（日） ふれあい渡里まつり（渡里地区）



4 成果（進捗状況と今後の課題）

【成果】

- ・「ふれあい奉仕作業」として年2回、地域の方々と児童とのふれあいを通して、地域の活動へ自主的・積極的に参加しようとする児童の姿が見られるようになってきた。昨年に引き続き大きな成果だった。
- ・「ふれあい渡里まつり」では、地域の方々やジュニアリーダーの協力もあり、多くの児童・生徒が地域の方々とコミュニティーの場に参加することができた。楽しい活動を通して、児童生徒と地域の方々の温かなふれあいがたくさんあり、地域の

方々と交流する貴重な場となった。

ジュニアリーダーは、地域の方々へのおもてなしの仕方を地域の担当者やメンバーの友達から学ぶ「学び合い」「助け合い」を身に付けるよい機会となった。

- ・「ミニ火の国まつり」では、児童の92%、保護者の46%が参加する等、地域の伝統行事への関心や参加意欲が高まった。また、堀原ミニ火の国まつり実行委員と教職員との顔の見える関係づくりを構築することができた。
- ・校庭の草刈り清掃ボランティアでは、学校を拠点とした地域の方とのコミュニティーの場をつくることで、さらに保護者や中学生、学校施設を使用している方々等、多様な方々と協働することで「助け合い」ができた。
- ・「小中合同あいさつ運動」により、児童生徒の交流をもち楽しくあいさつ運動をすることができた。生徒の中には、自ら校門前に立ち友達にあいさつを交わす生徒もできた。
- ・学校運営協議会代表者会議において、「地域でどのような子供たちを育てるか」「地域の力をどのように子供たちに生かすのか」について授業参観等を通して生徒の実態を把握したうえで熟議を重ねることができた。
- ・市民運動会にはジュニアリーダーが用具係等で参加し、地域の方々と協働し「助け合い」をすることができた。また、市民運動会に参加した生徒の中には、小さな子供を抱えて競技に参加した方よりも先にゴールをしないような気遣いができた。

【課題】

- ・未だ「コロナウィルス感染拡大防止」で地域等の行事が自粛されたり、感染の不安から参加を見送られたりすることが多々あり、地域行事への参加が懸念されている。
しかし、学校からの働きかけによつての参加率の影響は大きいと感じる。今後も、無理のない働きかけを行い、地域の活動に積極的に参加し、地域とのつながりを大切に思える児童生徒を育成していけるよう、学校でも働きかけていきたい。
- ・「学び合い」「助け合い」の育成は概ねできているが「きたえ合う」に関する取り組みが不十分であった。次年度は「きたえ合う」にも力を入れて、地域とともに子供たちの健全な育成に努めていく。
- ・ジュニアリーダーを対象に地域防災の研修会を開き、より地域に貢献できる子供たちの育成に努める。